令和６年度

ほがらか家族

明るい家庭づくり作文集

（瀬戸内市優秀賞受賞作品）



©瀬戸内市

瀬戸内市教育委員会

岡山県青少年育成県民会議瀬戸内地区連絡協議会

はじめに

公益社団法人岡山県青少年育成県民会議及び岡山県青少年育成県民会議瀬戸内地区連絡協議会では、家庭の役割、家族のあり方など、「明るい家庭づくり」をテーマとした作文を毎年募集しており、家庭教育等の重要性について意識の向上に努めております。

令和６年度、瀬戸内市内で６７０点の応募作品があり、その中から瀬戸内市の優秀１０点、優良２２点及び佳作６８点を選定しました。

この文集「ほがらか家族」は、瀬戸内市の優秀作品を掲載したものです。この文集が、日常のしあわせへの気付きや、家庭の教育力の向上の一助となり、青少年の健全育成活動へとつながることを心から願っております。

令和７年３月

瀬戸内市教育委員会　教育長　萩原　康正
岡山県青少年育成県民会議瀬戸内地区連絡協議会　会　長　神坂　俊規

瀬戸内市優秀賞受賞者一覧

〔小学生の部〕

題　　名	所　　属	氏　　名
かぞくがいるから	国府小学校　１年	坂本陽葵
生まれてはじめてのながれ星	国府小学校　２年	野村都羽
畑とぼく	行幸小学校　３年	上原　涼
おはなしタイム	邑久小学校　４年	安積一翔
ぼくのおじいちゃん	邑久小学校　５年	那須健人
家族と一緒に歩んできた小学校六年間	牛窓東小学校　６年	岡﨑咲和

〔中学生の部〕

我が家の畑の改造計画	牛窓中学校　１年	山根翔智
みんなでスポーツ観戦	牛窓中学校　２年	鳴坂百華
母がくれた三年間	邑久中学校　３年	杉田亜澄

〔保護者の部〕

年の終わりに	長船中学校	中川　愛

小学生の部

かぞくがいるから

国府小学校　一年　坂本　陽葵

「あしたもげんきにがんばるぞ。えいえいおう。」
わたしのいえでは、いつもふとんに、はいるまえ、みんなでてをかさねていいます。
おとうさんは、しごとへいくまえ、
「ぱわあをちょうだい。」
といって、ぐうたっちをしていえをでていきます。どんなにつかれていても、かえってくるといつもわらっていて、すごいなとおもいます。
おかあさんは、いつもがっこうからかえると、
「きょうもたのしかったかな。」
ときいてきます。けがをしていると、
「どうしたのかな。」
といちばんにきづいてくれて、おかあさんにかくしごとは、できないなとおもいます。うれしいときもかなしいときも、はなしをきいてくれて、だきしめてくれます。
いもうとは、わたしより、よんさいちいさいけれど、おかたづけがじょうずで、ほめられているのをみると「まけないぞ。」というきもちになります。いつもうしろをくっついてあるいてくるので、とてもかわいいです。
いつも、あたりまえだとおもっていたけれど、どうしてわたしが、まいにちがんばれているのかをかんがえてみると、かぞくとこのようなじかんがあるからだとおもいました。
おしごとをがんばっているおとうさん、ごはんやせんたくをがんばっているおかあさん、ほいくえんをがんばっているいもうと、かぞくみんなをみると、わたしも「がんばろう。」というきもちになります。
かぞくみんながいてくれてよかったです。

生まれてはじめてのながれ星

国府小学校　二年　野村　都羽

「おねがいごとはもうきまってるよ。」
わたしは朝からわくわくしていました。きょうはペルセウスざりゅうせいぐんが見える日です。朝、お母さんから、
「きょうの夜は、大きなながれ星が見られるかもよ。夜、いっしょに見に行こうか。」
と言われました。わたしは、今までながれ星を見たことがなかったので、
「うんぜったい見たい。」
と、こうふんしてさけびました。
きょ年、お母さんとテントはくと山をしました。まっくらな空に、白や赤やき色のたくさんの星がキラキラとひかっていました。こんなにたくさんの星があるんだから、ながれ星が見えるかなと、ドキドキ

しながら見ていました。でも、その時は見ることができなくて、つぎのお楽しみになりました。

夜、ねむい目をこすりながら、起きていました。おねがいごとは心にきめています。でも、どんなにがんばっても、三回も言うのはむずかしそうです。お母さんは、

「一回でいいんだよ。心の中でゆっくり気もちをこめておねがいしたらいいよ。」

と言ってくれました。

お母さんと、近所のくらいところに行きました。まずカシオペアざをいっしょにさがしました。カシオペア座の右下にながれ星が見えるそうです。首がいたくなったので、お母さんとねっころがって、二人でぼおっと空を見ていました。まだかなと思ったちょうどその時、ひゅうんと白くて長い光が空を走りました。お母さんもわたしも、思わず、

「あっ。」

と大きな声でさけびました。みじかいような長いようなふしぎな時間でした。ねがいごとをするひまはありませんでした。でも、お母さんと大切な思い出が、また一つふえて、しあわせな気もちになりました。



畑とぼく

行幸小学校　三年　上原　涼

ぼくの家では、近所に畑をかりています。学校の体そうマット三まい分くらいの大きさです。

畑をやり始めて今は三年目です。しゅうかくと言う目ひょうに向かって、家ぞくできょう力しています。でも、楽しいことばかりではありません。大へんなこともたくさんあります。

大へんなことの一つ目は、虫とのたたかいです。小さいなえの葉が、虫に食べられてだめになるしっぱいもしました。なるべく農やくを使わないようにするために、酢をうすめてスプレーでかけたり、見つけた虫は手でとってたいじしたりを毎回がんばりました。そして、虫は野さいだけではなくて、ぼくやお父さんもおそわれます。うっかりすると、一人で十か所、二人で二十か所くらいは、かゆくなります。

大へんなことの二つ目は、自分とのたたかいです。あつさたいさくのために、朝早いほうがよいので、ねむくておきるのがつらいです。お父さんにおこしてもらうけど、なかなかすぐにはおきられません。そして、一時間はあっという間にすぎていてあつくなってきています。つらいです。土をほったりするのも、重くてけっこうつかれます。ねむいけど、あついけど、つかれるけど、その先を考えてがんばれています。

でもよいこともたくさんあります。畑をすることで、お父さんといっしょに体を動かすことができてうれしいです。動画を見る時も野さい

の育て方を調べることが多くなりました。道具のかたづけのために、家の前でさぎょうするのが多いので、近所の人とあいさつや話をして、なかよくなりました。お母さんは、畑に行くじゅんびやかたづけ、そして何よりも、しゅうかくした野さいをおいしくりょう理してくれます。もちろん、ぼくもそのお手つだいをします。

畑を家ぞくですると、とれたてで新せんなむ農やくの野さいが食べられるので、家ぞくみんなの体が元気でいられます。そして、畑は土や草のある自ぜんの中での活動なので、気持ちがよくて、家ぞくみんなの心も元気でいられます。これからもいろいろな野さいのしゅるいを育ててみたいです。

おはなしタイム

邑久小学校　四年　安積　一翔

ぼくの家には『おはなしタイム』という時間がある。

「おはなしタイムしよーっ！」

家族がそろうとこの声がかかり、ばんご飯の時にはテレビを消しておはなしタイムが始まる。それぞれが今日の出来事などを話して、わが夜の食たくはもり上がる。お父さんの仕事の帰りがおそい日には、四人そろってご飯が食べられない日もある。ぼくや妹がねる時間までに帰ってきてくれると、ねる前におはなしタイムをしたりもする。夜ねる前のしたくを早くすませて、いつもより早くおふとんに入ってみんなで話をする。時にはクイズ大会が始まったり、早口言葉対決が始まって四人で大わらいして、ねる前なのに大もり上がりしてしまうこともある。

三年生の冬、ぼくがインフルエンザにかかった。家庭内感せんをさけるために、二階にかくり部屋を作った。ぼくが一人でさみしい思いをしないようにとテレビやマンガも用意してくれた。リビングとも会話ができるように、赤ちゃんのころに使っていたベビーモニターもおいてくれていた。熱もそんなに高くなくて、しんどくもなかったから、テレビやマンガがたくさんあるぼくだけの自由な空間がうれしかった。テレビをつけっぱなしでベッドでゴロゴロしながらマンガを読んでもおこられないし、じゃまもされない。でも、楽しかったのはさい初だけだった。まどの外が暗くなってくると、ぼくの気持ちもだんだん心細くなってきた。気をまぎらわすために面白いテレビ番組をみても、何だか物足りない。いつもならリビングで家族といっしょにテレビを見てわらったり、いっしょに遊んだりしてにぎやかにすごしているからだ。それが当たり前だった毎日。かくり生活をしてみて、家族とすごす時間の大切さを知れた。早く家族みんなの所へ合流したいという気持ちが一日目、二日目と日を追うごとにましていった。ふじ、家庭内感せんをすることなくりょう養期間を終えて家族と合流できた日は本当にうれしかった。いつもいっしょにいればケンカをする妹もうれしかったのかぼくのそばからはなれなかった。家族と顔を見合わせてわらったり、泣いたり、おこったりできることってすごく幸せなことなんだなと思った。

今の世の中は、テレビやゲーム、スマホやタブレットとたくさんのメディアがあって、一人ですごすのもたいくつはしない。一人でるす番もできる。ぼくもゲームをすることは好きだけど、やっぱり家族とわいわいにぎやかにすごす時間が好きだ。わが家にある『おはなしタ

イム』これからぼくの好きな時間。これからも、ぼくから声をかけて大切にしていきたい時間だ。

ぼくのおじいちゃん

邑久小学校　五年　那須　健人

ぼくのおじいちゃんはいつもとても元気です。暑い夏も寒い冬も朝早くから畑仕事をして、夕方には学校から帰ってくる弟や妹を途中まで歩いてむかえにいきます。その後も、片付けをしたりゴミ出しをしたり、いそがしく働きます。一日の仕事が終わると大好きなお酒をたくさんのみます。お酒を飲みながらじょう談を言ったり大きな声で笑ったりしてとてもにぎやかです。そしてたくさん飲んでねても翌日も元気で、朝早くから畑仕事をします。

そんなおじいちゃんが手術をすることになりました。人間ドックでレントゲンをとったとき、がんが見つかったからです。ぼくはとてもショックを受けました。手術が終わってもそのまま入院で帰ってこれないかもしれないとか、帰って来れたとしても何かのしょう害が残ってしまうとか、死んでしまったらどうしようとか、いやな考えが次から次へと思いうかびます。いつも連れて行ってくれている剣道にまた一緒に行くことも、剣道の試合で一本とった時に喜んでくれることも、負けた時にはげましてくれることもなくなってしまうんじゃないかと思うと、さみしくてたまりませんでした。

ぼくは妹と弟と一緒におじいちゃんに手紙を書きました。「がんばって六時間の手術、必ずたえて元気になって帰ってきてね。」と書きました。直接わたすのはてれくさいので、紙飛行機にして飛ばしました。おじいちゃんは、

「ありがとう、がんばるぞ。元気になったら剣道にも連れて行くからな。かぜをひいたら病院にも連れていくし、おいしい物も食べに連れて行くからな。」

と答えてくれました。

それから少しして、ついにおじいちゃんは入院しました。入院している間の畑仕事は、家族で手わけして行いました。畑のじゃがいもが大きくなっていたので、お父さんとお母さん、ぼくと弟と妹でしゅうかくしました。外はけっこう暑くて少し動いただけで汗ダクでした。じゃがいもは数がとても多く、スコップやくわで土をほるとじゃがいもまで一緒にほれてしまってきずがつき、うまくほれません。なかなか五人では進まずおばあちゃんにも手伝ってもらって、やっとお昼には全部ほれました。いつもこんな大変なことをおじいちゃんは全部一人でしているんだなとぼくは初めて知りました。

手術当日、六時間にもわたる手術は予定通り行われ、無事成功したことを電話で知らされました。家族みんなでむねをなでおろしました。おじいちゃんは今では、あれだけ飲んでいたお酒も飲むことがなくなり、元気も前ほどではなくなった気がします。でも無事もどってくれただけで十分です。

家族と一緒に歩んできた小学校六年間

牛窓東小学校　六年　岡﨑　咲和

私が一年生になった年に年号が平成から令和に変わりました。その年の大晦日、我が家で「さよなら平成の会」が開かれました。主役は私。ふみ台に乗り、

「これからさよなら平成の会を始めます。」

と言い、今までの思い出をふり返った後、

「さよなら平成！」

と大きな声で叫びました。家族は皆、ニコニコしながら動画をとっていました。会が終わると、

「こんな会しとるのはうちだけじゃろうな。」

とお父さんが言って、家族皆で大爆笑しました。今でも時々動画を見て、大笑いします。そして家族は、この会を「伝説の会」と呼んでいます。妹は小さかったので記憶にはないけど、動画を見てゲラゲラ笑います。今ではこんな事をしてたなんて恥ずかしいけど、これが一年生の時の一番楽しかった思い出です。

楽しかった思い出の他に、寂しかった思い出もあります。それは、私が三年生の時、一緒に住んでいたひいじいが亡くなった事です。ひいじいは病気で入院していたけど、コロナで誰も面会できず、様子も全く分からなくて心配でした。ひいじいが寂しそうで、このまま入院するか、家で介護をするか、家族会議を開きました。私は一番最初に、

「家に連れて帰ろうよ。」

と言いました。全員一致で家に連れて帰る事になりました。家族皆が役割を決め、家での介護が始まりました。私の役目は朝晩の声かけでした。私や妹が声をかけると閉じていた目をパッと開けてニコッと笑ってくれました。そして退院してから八日目に、ひいじいは家族皆に見守られながら、眠るように息を引き取りました。家族皆で協力しながらすごすのは大変な事もあったけど、前より絆が深まって、とても大きな家族愛に気づく事ができた出来事でした。

そして今年、最高学年の六年生になりました。五歳下の妹が入学してきて、一緒に登校するようになりました。前までは自分の事だけでよかったけど、班長になってからは下級生の面倒を見るようになりました。妹からは

「お姉ちゃん、荷物重たいから持って。」

と言われます。家で言われると腹が立つけど、班長としては無事学校に行かなくてはいけないという責任を強く感じます。

妹は初めての事があったらすごく緊張します。初めての小学校もとても緊張していると思うので、小学校生活で楽しかった事をたくさん教えてあげるのが私の役目だと思っています。

私はこんなに素敵な家族と過ごせてとても幸せです。家族だから、迷惑をかけることもかけられることもあるけど、どんな時だって私の自慢の家族です。いつでも頼ることができて、いつでも面白い最高の家族と一緒に過ごせていることが本当に幸せです。

中学生の部

我が家の畑の改造計画

牛窓中学校　一年　山根　翔智

「あなたには、思い出の場所がありますか？」

そう聞かされてパッと思い浮かぶ場所は、だいたい「誰かと一緒に訪れた場所」ではないだろうか。

二千二十二年、父と母は自宅近くの空地を購入した。石だらけの土地だったので、まずは畑にする場所の石ふるいをしなければならなかった。父と母の友達がトラクターで耕してくれ、その土をシャベルで石ふるい機に入れる。そしてそれを妹と一緒にふるう。つまり手動である。僕の家では「地獄の石ふるい」と呼ぶくらい大変な作業で、畑に行くのが嫌になる日々だった。

石ふるいが終わると、次は井戸掘りだ。場所を決める大役を僕が任された。「一度で水が出なかったら面倒だぞ。」と内心ヒヤヒヤしながら、慎重に場所を選んだ。父特性のドリルを掘削機につけ、家族で力を合わせて堀り進めていく。手が痛くて何度も諦めかけたけれど、水が出た時は本当に嬉しくて、真冬なのに家族みんなで水を掛け合って喜んだ。

畑にはたくさんの人が遊びに来てくれる。地域の人が野菜の苗を持ってきてくれたり、果樹の育て方のアドバイスをしてくれたりする。また、散歩がてら遊びに来て、父や母と楽しそうに話をしている人もいる。地域の人ばかりではなく、牛窓に観光に来た人が、思い思いの場所で写真を撮っている。この場所を訪れた人の楽しそうな笑顔が、父と母にとっても何より嬉しいことなのだと思う。

父と母は、

「この畑が、誰かの思い出の場所の一つになったらいいなぁ。」

といつも言っている。その言葉通り、「畑の改造計画」に余念がない。父の

「いいことを思いついた！」

という言葉に、母はいつも

「またぁ～!?」

とあきれ顔で返す。それでも最後には二人共ノリノリで畑に出掛けて行く。そんな二人の様子を見ていると、「また始まった！面倒だなぁ…。」と思う反面、いつの間にか僕もノリ気になってしまうのだ。

畑の改造計画では、まず手作りのどこでもドアを作ったことがヒットとして挙げられる。また、海のそばによく似合う南国の木もたくさん植えている。これは、父と母が奈良県や愛知県、大阪府にわざわざ買い付けに行ったものだ。自分達で掘って持って帰ってくるのだから、本当に驚きだ。畑には、動物のオブジェも置いている。近くのホームセンターで売られているのを母が発見し、そこからコツコツと集めてきたものだ。対応してくれた店員さんもなぜかノリノリで、一緒になって在庫を探し、色々な店舗から運んできてくれた。

動物の中に、ひと際大きいサイのオブジェがある。これは僕と父が奈良県まで取りに行ったものだ。前の持ち主は以前お店を経営されており、このサイを「ミホちゃん。」と名付け、すごく大切にされていたそうだ。別れの時に名残惜しそうにされていたが、父が畑の写真を見せると、

「ここならミホちゃんも寂しくなさそうですね。また旅行がてら会いにいきます。」
と安心した表情を見せてくれたことがとても印象的だった。
こうして書き出してみると、今の畑の姿になるまでには、たくさんの物語があったのだと分かる。様々な人の協力やアドバイス、そして不思議な縁があって、我が家の畑は今の姿になったのだろう。
「誰かの思い出の場所の一つに」という父と母の思いから始まった「畑の改造計画」。僕にとってはこの畑が、家族との思い出の場所、堂々一位だ。見知らぬ誰かの心にも、我が家の畑がいつかランクインしたら嬉しい。我が家四人で完成させた最高傑作だから…。

みんなでスポーツ観戦

牛窓中学校　二年　鳴坂　百華

私の家族は、父と母と兄と私の四人家族です。私と兄は五つ歳がはなれており、兄が高校生になった頃から、家族四人そろって過ごす時間が少なくなりました。私はまだ小学五年生で、そのことに少し寂しさを感じていました。しかし、兄の一言で家族の時間が増えたのです。
ある日の夜、家族でご飯を食べている時に兄が、
「最近、バレーボールが面白いから見てみようよ。」
と言ったことをきっかけに、家族でテレビのバレー観戦をしてみることになりました。その当時、ネーションズリーグという世界大会の最中でした。日本男子はとても強く、試合内容もとても面白く、日本の代表として戦う選手の方々のプレーがとってもかっこよくて家族で虜になってしまいました。家族みんなで観戦する中で家族が一つのものに熱中する楽しさを実感しました。少なくなっていた家族との時間が増えてとても嬉しく思いました。特に、父と話すことが少なくなったと感じていた時なので、私が
「髙橋藍選手の守備も攻撃もできるところがすごいよね。」
と話すと、その話に乗ってくれたり、普段の生活の時に話す話題となり、話しをすることが増えたりしました。そのおかげで父とバレーボールだけでなく、学校生活での出来事なども話すことが増えたように感じました。
さらに今年、パリオリンピックがありました。オリンピックでは、バレーボールだけでなく卓球やバドミントン、ゴルフなど様々な競技を家族と観戦しました。点をとったら家族で大盛り上がりし、点をとられたらみんなで悔しがり、一体感が生まれました。家族でハラハラ、ドキドキを分かち合い、とても楽しく、家族の仲が深まった気がします。普段はご飯の時ぐらいしか家族と一緒にいない兄が観戦をするために一緒にいて、みんなと話している姿が嬉しかったです。また、今まであまり興味のなかった競技も家族と観戦することで、楽しみながらそのスポーツの面白さや新たな一面を知ることができました。その中でもゴルフは父が好きな競技であり、私は今まで真剣に観戦したことはなかったけれど、父が私の分からないゴルフ用語や選手の情報を教えてくれることで、一緒に楽しく観戦しました。そして、山下美夢有選手という好きな選手ができました。これからもゴルフの番組を見てみたいと思うようになりました。
なにげない兄の一言で始まったスポーツ観戦。このスポーツ観戦が家族の集まり、一緒に過ごすきっかけとなったことで、たくさんの嬉

しい出来事がありました。まずは、バレー観戦で父と仲が深まったことがゴルフを一緒に観戦しようと思えるきっかけになり、新たな競技の面白さに気づけたことです。また、兄と過ごす時間が増えたことで、家族みんなで一緒にいることの楽しさに気づくことができました。今の我が家はスポーツ観戦を通して、より仲が深まったと思います。

今年、兄は大学生になり、いつか家を出る時がくるかもしれないのですが、だからこそ家族四人で過ごせる時間を大切にしたいです。そして、今後はスポーツ観戦以外にも家族四人で過ごす時間を作っていきたいと思いました。

母がくれた三年間

邑久中学校　三年　杉田　亜澄

小学四年生の六月頃、私は急に学校へ行けなくなりました。今でもどうして行けなくなったのか理由は分かりません。ですが、母はそんな私を否定せず許してくれました。

それから不登校の日々が続いたけれど母は「学校行けそうかな。」「学校に行かないと。」とは言いませんでした。私に気をつかってそう言わなくても心の中では学校に行けない私のことを心配していて、できるだけ学校に行ってほしいと思っているのではと思いました。

そんな私の生活に納得していない人もいました。特にきょうだいは厳しかったです。勉強を頑張っているきょうだいには、休んで勉強もしていない私を許せない気持ちがあったのでしょう。言動もきつく、「どうせ仮病だよ。」「私だって休みたい。」と、どの言葉も一番聞きたくないものでした。きょうだいにそう思われていたことが悲しかったです。そんなきょうだいに母は「あーちゃんは心の休みが必要なんよ。」と言ってくれました。唯一味方してくれた母がかけてくれた言葉はとても救いとなり、涙が出ました。

何週間か経った頃、私は学校に行くようになりました。教室に入ることができなかったので保健室で過ごしていました。送り迎えはずっと母がしてくれていました。母が来られないときは父や祖母、祖父に頼んでくれました。帰る約束の時間より早く帰りたい時も嫌な顔せず迎えに来てくれました。

十一月頃、学習発表会がありました。四年生は音楽会で披露した歌や演奏を親に見てもらいます。私も皆と練習し、披露することができました。

帰宅後、母は「涙が出たよ。」と言ってくれました。その涙は、学校に行くことが出来なかった私が同級生と一緒に発表している嬉しさだと思いました。それと同時に母はとても大変だったのだと思いました。仕事だけでも大変なのに送り迎えや付き添いなどで倍に疲れさせてしまっていることを日々感じていました。そんな母に「ありがとう」と声をかけられるほど素直ではありませんでした。けれど母はいつも「よく頑張ったね。」と言ってくれたことに私はとても感謝しています。

五年生になってからは、学校に行きながら、勉強を教えてくれる施

設に通いました。母は私に勉強することを強要しませんでした。私のことを信頼してくれていると感じました。また、スクールカウンセラーの方と話す時間も用意をしてくれました。あまり知らない大人と話すことが苦手だったので、一緒に母もいてくれて真剣に私と向き合ってくれました。

六年生になってからは、保健室ではなく別の部屋で過ごしました。その頃、少しずつ教室で授業を受けてみたりしていました。ですが、疲れも大きくなっていたので母はずっと付き添ってくれていました。仕事もあるけれど一緒に勉強したり、掃除したり、教室まで来てくれたりしました。不満も言わず一緒にいてくれたことが本当に嬉しく、とても安心することが出来ました。ここまで一緒にいてくれる親はなかなかいないと思いました。

今、私は中学三年生です。学校で勉強して、友達と何てことないような話題で盛り上がって、とても楽しい学校生活を送っています。今の私がいるのは、あの三年間があったからだと思います。私にとって大切な三年間をくれた母はとても偉大だと思います。

明るく元気でよく愚痴を言っている母、優しくて強くてよくボケて家族皆に無視されている母、私を支え続けてくれる母、今もずっと支えてくれている母が大好きです。そんな母にいつか、恩返しすることが出来る立派な人になりたいと思っています。

最後に私が母に伝えたいことがあります。今まで言えなかった言葉、本当はずっと言いたかった言葉。

「ありがとう。」

保護者の部

年の終わりに

長船中学校　中川　愛

これは去年の年末の出来事。雪も時折しんしんと降るとても寒い日の朝だった。私は温かい布団から気合を入れて起きた。

家族が楽しみにしている餅つきの準備をするために少しだけ早起きをした。もしかしたら、家族の中で一番楽しみにしていたのは私だったのかもしれない。朝から楽しい一日にしたいと胸が高鳴っていた。

私は、納戸から杵と石臼を出してきた。石臼は家族用なので一人でも持ち運ぶことができるサイズだが、中々に重い。落として割ってはいけないと慎重に庭へ運んだ。

杵と石臼の準備をしている時、ふと自分が幼かった頃のことを思い出した。私が住んでいた地域では年末になると町内会で餅つきをしていた。集会場に皆で集まり、大人も子供も協力して作業した。薪や釜やもち米を準備する人。きな粉やあんこ、それに野菜たっぷりのお鍋を作る人。杵と臼を準備する人。三十人ぐらいで作業していただろうか。わきあいあいとしてとても楽しかった。

近所のおじさんやおばさんに薪の割りかたやかまどに薪を入れるタイミングを教えてもらったり、友達とつきたての餅をまん丸に丸めたり、どの作業もワクワクしたことを思い出した。

そのようなことを思い出しながら、いまだこうして家族で餅つきが

したいと思うのも幼かった時の楽しい記憶があるからだろうと思った。

そうこうしているうちに子供達が起きてきた。中学生の長女と次女はもち米を洗ってくれた。ザッザッとボウルの中で洗い、ザルに移し入れた。かまどはないので炊飯器のおこわコースで炊いた。

しだいにいい匂いがしてくる。もち米のほんわか甘い香りだ。子供達も私も楽しみな気持ちが増していった。

もち米が炊ける前にどんどん準備を進めていかなくてはいけない。餅とり粉をトレイに用意しておく。つきたてのお餅がくっつかないようにするためだ。きな粉も砂糖と塩を混ぜてトレイに用意した。子供達がスプーンの背を使って砂糖の塊を潰していく。

「早く食べたい！」

と子供達も楽しみな様子だ。

最後に、お湯を石臼に入れた。もち米を入れる時にはお湯は抜いておくが、こうして石臼を温めておくともち米を入れた時に冷えて固まるのを防ぐことができる。

ピピーッと炊飯器がなった。もち米が炊けたのだ。子供達と炊飯器をのぞいた。モワッと湯気の出た後につやつやのもち米が見えた。上手く炊けたようだ。

タオルを手に持って炊飯器からお釜を取り出した。炊きたてはかなり熱いが、急いで庭に置いてある石臼の中に入れた。

ここからは餅が固まらないように時間との戦いになってくる。子供達は杵を持ち、ぐにぐにともち米を潰していく。ある程度潰れてきた頃、私はやや大きい声で

「よいしょ！よいしょ！」

と声を出した。調子を合わせて子供達が杵で餅をついていく。私は餅が石臼につかないように手に水をつけてまとめていく。餅は杵でつくたびによく伸びた。

重い杵を何度も上げてはおろすので大変だろうと思ったが、子供達の顔は笑顔だった。私は、子供達の楽しむ姿を見て本当に嬉しくなった。

この日は、ご近所の小学生の子達にも声をかけて、餅つき大会も開催した。どの子も初めて餅つきをしたらしいが、とても上手だった。出来上がったつきたての餅は、甘いきな粉餅にしたり、甘じょっぱい磯辺餅やご近所さんが作ってくれた美味しいお鍋に入れて食べたりした。皆の笑顔が出るたびに嬉しくなる。私が幼い頃、ワクワクしながら餅つきをした気持ちを色々な人に知ってもらえたかなと思えた。

私は、餅つきは日本の文化に触れるだけでなく、ご近所の人や友達との交流の場になっていると感じている。美味しいお餅を食べ、皆でおしゃべりを楽しむのは、何とも言えない贅沢な時間だ。

年も明け、春になり、子供達は進学・進級した。子供達はいつか就職し、それぞれの人生を歩んでいくことになるだろう。あと何年一緒に暮らし、あと何回家族で行事を楽しむことができるだろうか。寂しく思うところもあるが子供達の人生を応援していきたい。

私が年をとっておばあさんになっても、我が家の恒例行事として餅つきは続けていきたい。この家が

「ただいま。」

と言っていつでも帰れる子供達の居場所でありたいと思っている。

瀬戸内市優良賞〔小学生の部・中学生の部・保護者の部〕受賞者一覧

題　　名	所　　属	氏　名
わたしとおばあちゃん	邑久小学校　1年	安井愛佳
ばあばのまほうのて	邑久小学校　1年	城戸心希
おかあさんのおみそしる	邑久小学校　2年	片山　結
わたしの妹	邑久小学校　2年	江口すみれ
家ぞくのえ顔の理由	邑久小学校　3年	齊藤夏奈
山登り	行幸小学校　3年	三宅崇太
家族で話し合った防災のこと	牛窓東小学校　4年	髙田浩志
家族で人生ゲーム	行幸小学校　4年	竹原悠真
ぼくの小さな弟	邑久小学校　5年	浅野陽貴
笑い声（中村編）	行幸小学校　5年	中村亜八野
百さいになってもおどれるよ	邑久小学校　6年	松島蒼也
お兄ちゃんのサクラ	邑久小学校　6年	森上直美
ぼくとお父さん	邑久中学校　1年	坪井瑞季
私のひいばあ	邑久中学校　1年	村上安珠
母への感謝	邑久中学校　2年	大島一朗
感謝	長船中学校　2年	岡正宗也
私の夢	牛窓中学校　3年	真木心暖
両親の偉大さ	長船中学校　3年	山下翔乃
使用済みスケッチブック	国府小学校　保護者	盛　博貴
ザリガニが教えてくれたこと	行幸小学校　保護者	船木麻衣子
本読み苦手	行幸小学校　保護者	池田吉子
三人違って三人がいい！	行幸小学校　保護者	林　由香利

瀬戸内市佳作〔小学生の部・中学生の部〕受賞者一覧

題　　名	所　　属	氏　　名
りょこうにいったよ	牛窓東小学校　1年	岡崎和花
わたしのひいおばあちゃん	牛窓西小学校　1年	柿本　明
ぼくのかぞく	牛窓北小学校　1年	藤本　海
わたしのおねえちゃん	邑久小学校　1年	赤嶺紗凰
はじめてのひとりじめ	邑久小学校　1年	安積世絆
ありがとうがいえるかぞく	今城小学校　1年	髙橋羽音
ぼくのおとうと	行幸小学校　1年	岡部優生
ぼくのかぞく	行幸小学校　1年	片岡蒼人
ブンとかぞくのこと	牛窓東小学校　2年	服部和果
ぼくができること	牛窓北小学校　2年	髙橋碧斗
大すきなじいじとばあば	邑久小学校　2年	戸井祐那
ぼくの家ぞく	邑久小学校　2年	澤田春人
あにのやきゅうのおうえん	今城小学校　2年	田淵光莉
ぼくのおとうと	美和小学校　2年	小谷　翼
わたしのいとこ	国府小学校　2年	小林愛佳
あたらしいきょうだい	行幸小学校　2年	行司彩七
ふたりだけの時間	行幸小学校　2年	藪木結愛
ぼくにできること	牛窓東小学校　3年	藤井晴大
おばあちゃんのえ顔	牛窓西小学校　3年	宗髙　輝
子どもべやの大かいぞう	牛窓北小学校　3年	真木優妃
かぞくは力	邑久小学校　3年	上寺涼太
お兄ちゃんのゆめをおうえんして	邑久小学校　3年	大河原らん
ぼくのおうえんだん	邑久小学校　3年	石井智揮
おばあちゃん、ありがとう	今城小学校　3年	坪井鈴佳
「わたしの家ぞく」	裳掛小学校　3年	坂本茜音
上のお兄ちゃん	国府小学校　3年	勝部惠太
ぼくのお姉ちゃん	国府小学校　3年	柴田　圭
ぼくはお助けマン	牛窓北小学校　4年	松本稜央
ひいおばあちゃんありがとう	邑久小学校　4年	清水篤翔
おばあちゃんのきん急入院	邑久小学校　4年	日笠早希子
大とつぜんの家族	邑久小学校　4年	皿田佑李
ひいおばあちゃんのまほうの手	今城小学校　4年	大島　岳
「楽しむ工夫」	裳掛小学校　4年	井上四葉
兄弟仲良く	美和小学校　4年	小谷歩夢

題　　名	所　　属	氏　　名
わたしのひいばあ	国府小学校　4年	田中　　詩
ぼくと家族とバスケットボール	国府小学校　4年	髙原京介
明るい笑顔	行幸小学校　4年	畑中麗冴
家けい図から分かること	牛窓東小学校　5年	武内桃花
自慢のお父さん	牛窓西小学校　5年	畑中太白
私に出来ること	牛窓北小学校　5年	柏原希星
心のやさしいお姉ちゃんとして	邑久小学校　5年	光本莉愛
ぼくのメダカ	邑久小学校　5年	俵　　遥希
ひいおじいちゃんとのお別れ	今城小学校　5年	村上紗桜
夏の思い出	国府小学校　5年	水田賢冴
命のつながり	国府小学校　5年	中島至悠
応援の力	行幸小学校　5年	藤田湊翔
「おめでとう」を姉に	牛窓西小学校　6年	岡　　節奈
夏休みの挑戦	牛窓北小学校　6年	井上夢萌
あこがれのお母さん	邑久小学校　6年	安藤茜音
家族の支えをむねに	邑久小学校　6年	岡部莉望
感謝の気持ち	今城小学校　6年	土井内那花
私のわくわく	国府小学校　6年	赤木梨沙
家族マージャン	国府小学校　6年	檀上葉月
私の兄	行幸小学校　6年	藤江里帆
兄からもらった勇気と自信を胸に	行幸小学校　6年	播本　　花
大好きなおばあちゃん	邑久中学校　1年	阿部華愛
私の自慢	長船中学校　1年	中川　　凛
「私の自慢のおじいちゃん、おばあちゃん」	長船中学校　1年	米﨑潤葉
妹とバレーボールと私	長船中学校　1年	目賀稀乃華
家族のバランス	邑久中学校　2年	橋本湊人
家族の家庭での担当	邑久中学校　2年	杉田愛美
私の家族	邑久中学校　2年	宇津木咲和
私とひいおじいちゃんの最後の約束	長船中学校　2年	太田佳歩
家族の絆と二匹の犬	長船中学校　2年	望月遥真
私の家族	邑久中学校　3年	下田奏汰
我が家の家作り	長船中学校　3年	河合陽太
祖父の断捨離	長船中学校　3年	堀元千聖
姉から学んだこと	長船中学校　3年	新田朔久

ほがらか家族

明るい家庭づくり作文集

（瀬戸内市優秀賞受賞作品）

令和７年３月発行

編集発行

瀬戸内市教育委員会

岡山県青少年育成県民会議瀬戸内地区連絡協議会

〒７０１－４３９２　瀬戸内市牛窓町牛窓４９１１

瀬戸内市教育委員会社会教育課内